≤

**●働く上で様々な配慮をしなければならない方を受け入れれば、最初はいろいろな苦労があるかもしれません。**

**●しかしながら、その苦労を乗り越える過程で、例えば、業務分解等により事業所全体の作業効率が改善される、あるいは、従業員一人ひとりが抱える事情に配慮することができるよう職場環境を改善することで、従業員の定着率が高まり人材育成にもつながることが期待されます。**

**●なお、生活困窮者を受け入れた就労訓練事業者が一人で悩むことがないよう、事業開始後は、自立相談支援機関がフォローを行います。**

**●人口約3,600人のある町で、調査を行った結果、18歳以上55歳未満の不就労のひきこもり113人の存在が確認されました。これは、その自治体の同年代の人口の約8.7％に相当するとのことです。**

**●この調査結果を受け、町では、ひきこもりの方々に対するきめ細かな就労支援を行い、既に60人以上がひきこもりから脱し、35人以上が一般就労を果たしています。**

**●この町で起きていたことは、どの地域においても起こりうるのではないでしょうか。人口減少の中で地域や地域経済を維持するためにも、地域を挙げてこの問題に取り組むことが必要です。**

**労働力人口が減少する中で、地域を維持するためには、**

**「社会の支え手」を一人でも多く増やしていかなければなりません。**

**生活困窮者を受け入れ、誰にとっても働きやすい職場環境をつくることは、**

**業務の効率化だけでなく、職場定着や人材育成にもつながります。**

**地域のため**

**自らの事業所のため**

**今、なぜ就労訓練事業に取組む必要があるの？**

**生活困窮者のため、地域のため、自らの事業所のために、**

**事業の実施を考えてみませんか？**

**就労は、私たちにとって、生活の糧を得る機会ですが、それだけでなく、**

**社会参加あるいは自己実現の機会でもあります。**

**生活困窮者の生活を安定させ、再び社会の中で居場所を見つけてもらうためにも、**

**就労の機会の確保は非常に重要です。**

**●就労は、経済的な自立に資するばかりではなく、日々の生活のリズムを整え、また、社会の中での役割を得つつ、成長するための機会でもあります。特に、生活困窮者の中には、地域社会の中で孤立している方が多くいらっしゃり、再び社会とのつながりをつくっていくことが自立に向けて不可欠です。**

**●生活困窮者は、一人ひとりが様々な困難を抱えていて、それぞれが目指す自立のかたちも異なりますが、就労が可能な方については、地域において就労できるよう支援をしていくことが大切です。**

**生活困窮者のため**